



あたらしい友だちがやってきた（2時間）【中・高学年】



ねらい

他国の様々な文化や習慣にある「ちがい」を多様性としてとらえることができる。



準備するもの

- ・「あたらしい友だちがやってきた」カード（大阪市小学校教育研究会国際理解教育部作成教材：SKIPポータル→waku-waku combi サイト内よりダウンロードする。）



すすめかた

1. 「あたらしいともだちがやってきた」のルールを説明する。
2. 配られたカードを「いいよ（受け入れられる）」と「いやだな（受け入れられない）」に分けるように指示する。
3. なぜ、そのような分け方になったのかを全体でシェアする。
4. それぞれのカードに書かれていることの説明を聞き、活動を通して思ったことや感じたことを交流する。



すすめかたのヒント

- ・ 1について、まず個々の意見を伝え合った上で、グループの意見としてまとめるようにする。グループの意見としてどちらかに決めることができなかった場合は、どのような理由で意見をまとめることができなかったかを明らかにするようにする。
- ・ 2について、この活動はグループで行う。カードに書かれている内容をグループ内で共通理解した上で、作業をすすめるようにする。カードを分ける時の理由についての意見交流には、十分な時間をもつようにする。
- ・ 3について、グループでの話し合いを全体でシェアできるようにする。
- ・ 4について、カードに書かれている文化や習慣には、理由があることを説明し、比べたり否定したりするものではないことを理解できるようにする。



解説

- ・ 「すきなもののビンゴ」などをアイスブレイキングとして取り組むことで、話し合いの場で、互いの意見を肯定的にとらえながら進める雰囲気づくりにつながることができる。
- ・ 本教材は、転校生が来たという設定の上、外国の様々な文化や習慣を取り上げ、子どもたちが考えることができるように作成されている。実施する前には、指導者もカードに記されている文化や習慣について良く理解しておきたい。
- ・ カードの枚数や内容については、発達段階に応じて精選する。学年、学級の実態に応じてカードの枚数を変えて実施するようにする。
- ・ カードの中の文化や習慣には、児童が受け入れがたいものもある。そうした児童の率直な感想を尊重しつつも、否定されるべきものではないことを理解できるようにする。その上で、他国の様々な文化や習慣にある「ちがい」を多様性としてとらえることができるような意見交流ができるようにしたい。